



## 第 25 番 蛤蜊 観音(こうり)

俗に、はまぐり観音といわれている。  
伝説では、唐の文宗皇帝が蛤を  
食べようとした時、殻が開かないので、  
香を焚いて祈禱すると、観音様が  
現れたという。皇帝の平素からの仏への  
帰依心が、観音の応現となったのである。